

## 地域推薦枠医学生の卒前・卒後教育をどうするか？

～大学と自治体の連携に関するシンポジウム～

2010年2月19日(金)

於：都道府県会館（東京 赤坂見附）

現在、地域の医師不足が顕在化し、多くの医学部・医大にていわゆる地域推薦枠医学生の入学制度が導入されるようになりました。そこで、昨年度は地域推薦枠医学生の卒前教育や卒後研修に関わる全国の関係者各位にお集まりいただき、教育研修のあり方について、初めてのシンポジウムを企画致しました。

来年度からは、更に緊急医師増加対策に合わせた地域推薦枠医学生が急増することになっています。地域推薦枠医学生には、都道府県の医学修学資金体制の整備が推奨されています。しかし、これらの学生に対する医学修学資金体制については各都道府県とも取り組みが様々で、また制度は作ったものの、医学生を地域に定着させる教育については模索中のことも多いことと思います。

また、地域で働く医師の欲しい自治体と、専門医を多く必要としながら、地域の医療も支える必要に迫られている大学とでは、少し考え方が違っているのも事実だと認識しております。

これらの共通の問題を抱える大学、自治体同士がそれぞれの立場をふまえ、情報を共有し、意見交換を行うことは、非常に意味深く重要と考えています。

そこで、全国の地域推薦枠医学生の教育や卒後研修の関係者各位にお集まりいただき、討論を通して地域推薦枠にて入学する医学生が、夢と希望を持って医療が行えるような施策について考えて頂きたく、このシンポジウムを企画致しました。

日 時：2010年2月19日(金曜日) 午後13:00～午後16:40

場 所：都道府県会館(東京 赤坂見附)1階大会議室

参加費：無 料

参加者：地域推薦枠を有する全国の医学部・医大の教育関係者、並びに都道府県自治体の関係者  
当事者である、地域推薦枠入学の医学生等

13:00 開始 開催趣旨説明

大脇哲洋 鹿児島大学離島へき地医療人育成センター 特任教授

司会 鎌村好孝 先生(徳島県医療環境整備室 室長)

嶽崎俊郎 先生(鹿児島大学離島へき地医療人育成センター センター長)

13:10 講演①島根県での取り組み

a 島根県 木村清志 先生 (島根県健康福祉部 医療企画監)

b 島根大学 熊倉俊一 先生 (地域医療教育学 教授)

14:00 講演②高知県での取り組み

a 高知県 家保英隆 先生 (医師確保推進課 課長)

b 高知大学 阿波谷敏英先生 (家庭医療学講座 教授)

14:50 休憩・ポスター討論

15:05 講演③鹿児島県での取り組み・学生の感想

a 鹿児島県 永山達也 氏 (医療制度改革推進室 室長補佐)

b 鹿児島大学 根路銘安仁 先生 (当センター 特任准教授)

c 鹿児島大学 医学部医学科 地域推薦枠医学生

15:55 総合討論

16:40 終了



都道府県会館会場



趣旨説明



司会進行



講演①



会場内展示コーナー



総合討論



講演③

講演1-a

地域推薦枠医学生の卒前・卒後教育をどうするか？

～大学と自治体の連携に関するシンポジウム～

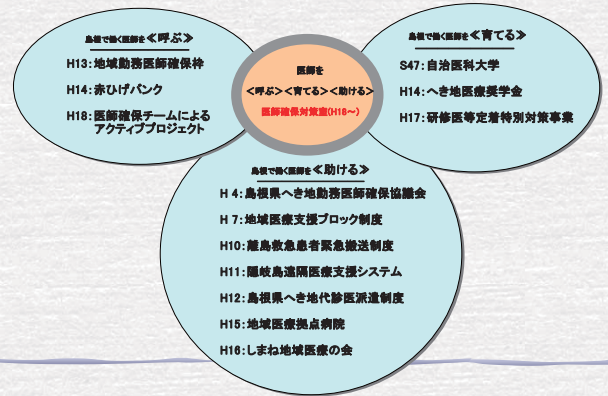
島根県での取り組み

島根県健康福祉部  
医療企画監 木村清志

平成22年2月19日(金)  
都道府県会館

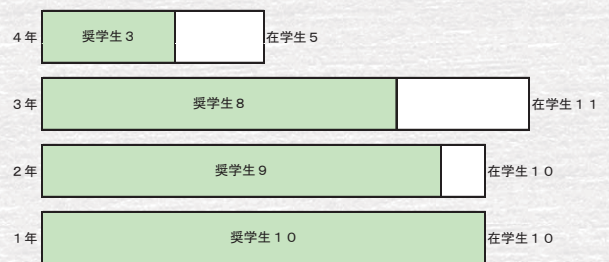


島根県の地域医療支援対策事業の概要

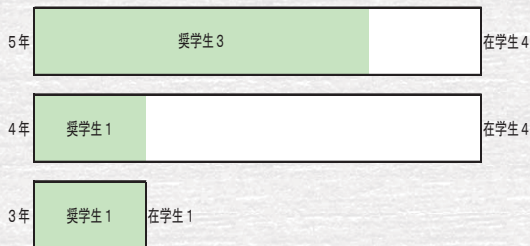


島根で働く医師を《育てる》

島根大学医学部地域枠学生の  
在学年及び奨学金貸与者数



島根大学医学部地域枠（学士3年次編入）学生の  
在学年及び奨学金貸与者数



医学生のための奨学金制度

(1) 医学生地域医療奨学金

- 対象者 大学生、大学院生で、将来、島根県内の公的医療機関や中山間地等での勤務を志す方（大学、出身地の別は問いません）
- 貸与額
  - ・入学金相当額 / 282,000円
  - ・大学生月額 / 100,000円
  - ・大学院生は150,000円
- 返還の免除  
 (例) : 在学中6年間貸与された場合、卒業後18年が経過するまでに、県内公的医療機関等で3年間、県内のへき地医療機関で3年間の計6年間勤務すれば、返還免除

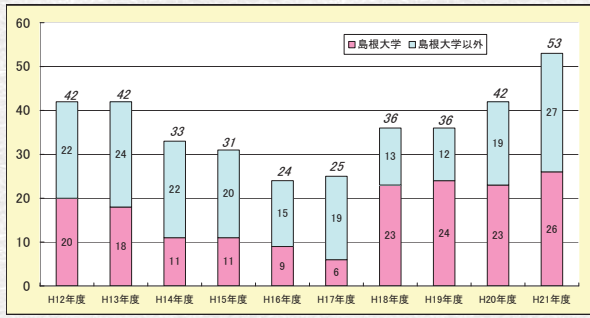
(2) 緊急医師確保対策枠奨学金

- 対象者 島根大学医学部緊急医師確保対策枠推薦入学者（5名）
- 貸与額
  - ・入学金相当額 / 282,000円
  - ・月額 / 100,000円
  - ・授業料相当額 / 535,800円/年
- 返還の免除  
 卒業後12年以内に初期研修期間を含む9年間(うち4年間はへき地)を県内の公的医療機関等で勤務した場合、返還免除

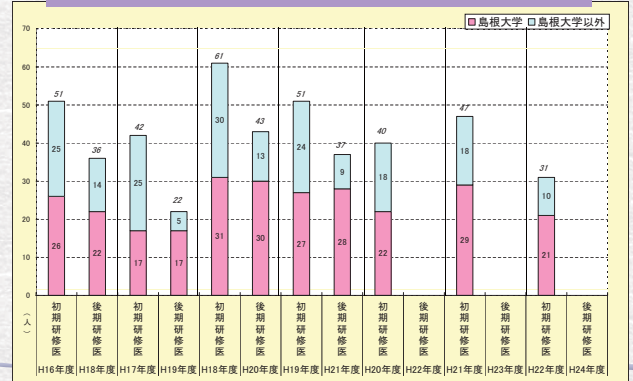
奨学金 学年別貸与状況

制度名	H21 定員枠	医学生						医師		合計
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	初期 3年目以上		
地域医療奨学金 (H14~)	20	14	17	15	14	7	2	4	3	76
しまね医学生特別奨学金 (H18~)	3	1		2	3	3	2	1		12
緊急医師確保対策枠奨学金 (H21~)	5	5								5
合計	28	20	17	17	17	10	4	5	3	93

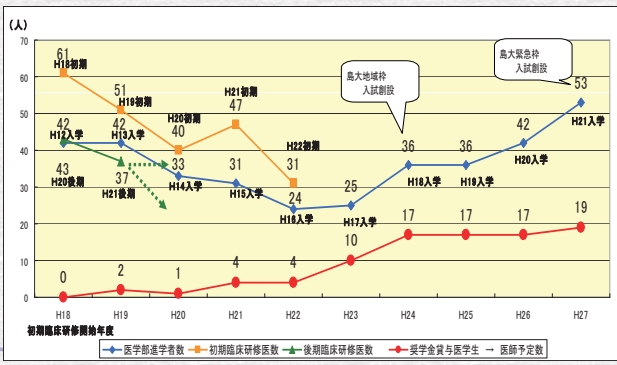
## 県内高校からの医学部進学者数の状況



## 島根県の初期・後期研修医の状況



## 医学部進学者数、研修医数の状況



## 「研修医等定着特別対策事業(H17～)」

**【目的】**  
医学生及び研修医に対し、県内研修病院での研修を促すことにより、将来、島根県の地域医療を担う医師の県内定着を図る。

**【現状・問題点】**

- ◆H16年度から医師の初期臨床研修必修化（2年間）がスタートし、新卒医師は研修先として都市部の大病院を希望する傾向があり、県内の研修病院を希望する者が少ない状況。
- ◆県内で研修する医師が少なくなることは、将来の医師不足に拍車がかかることが懸念される。

**県内病院における初期・後期臨床研修医の確保が、将来の医師確保の大きな鍵となる**

## 高校生医療現場体験セミナー

**目的**  
県内の高校生を対象に、医療現場での体験を通じ、医師の仕事や地域医療についての理解を深め、医師を目指そうとする生徒を増やす。

**実施時期**  
年に2回実施（夏休み・春休み）

**研修場所（平成20年度）**  
夏：松江赤十字病院（7校20名）、浜田医療センター（4校9名）、隠岐病院（1校8名） 計37名  
春：松江生協病院（7校29名）、公立雲南総合病院（4校21名）、出雲市立総合医療センター（7校21名）、益田医師会病院（6校42名） 計113名

## 夢実現進学チャレンジセミナー

**目的**  
医学部や理系難関大学・学部への進路希望を実現できるよう支援するとともに、医学部への興味関心を喚起する。

**対象**  
県内の高校2年生

**研修内容**  
場所：サンレイク及び島根大学医学部

3泊4日の勉強合宿のうち3日目に、医学部附属病院での手術部見学や縫合手技の体験など密度の濃い医療体験実習や、現役医師からの体験を通じ、医療に携ることの重さや喜びを伝える内容

**実績**  
県内17校（県立15校 私立2校） 67名（男46名 女21名）

## 地域医療研修

医学生に地域医療を肌で感じてもらう事業です！

**対象**  
1 島根の地域医療に興味を持つ医学生（大学や出身は、問いません。）  
2 島根県出身の自治医科大学在学中の医学生  
3 島根県から奨学金の貸与を受けた医学生

**実施時期**  
年に2回実施  
1 夏季（平成20年度：8月4日～22日のうち2～3日間、44名参加）  
2 春季（平成20年度：3月26日～27日のうち2日間、15名参加）

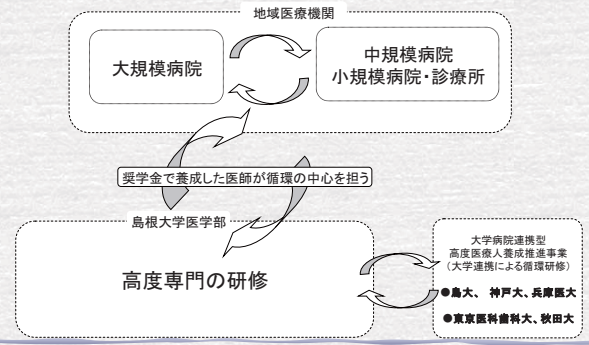
**研修地域**  
6地区（松江、雲南、県央、浜田、益田、隠岐（島後、島前））

**研修費用**  
1 旅費 松江市から研修地までの間の旅費は、県が負担（計算は、県の規程によります。）  
2 食事代等 自己負担

## 地域医療研修の様子



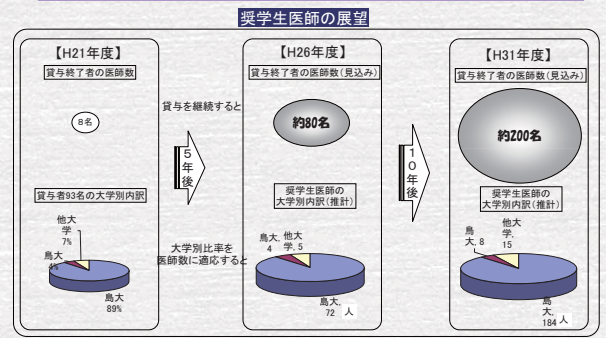
## 島根県内で活躍する医師の養成



## 地域医療再生計画(案)

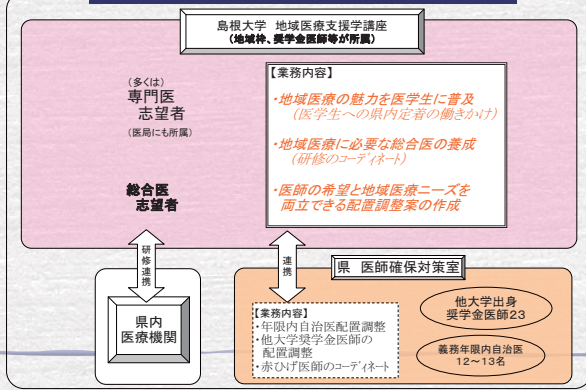
- ◆事業実施期間 H21年度～H25年度
- ◆事業計画
  - 1 医師確保対策
  - 2 医療用ヘリコプター
  - 3 ITを活用した地域医療の支援
  - 4 看護職員確保対策
  - 5 がん予防・検診対策

## 医学生奨学金貸与者等の勤務先調整システム概念図



## 寄附講座の設置(案)

島大出身者の勤務先調整システム構築と専任組織の配置



## 今後の方向性

- 若手医師が県内で専門医取得を含め、充実した研修を受けられる体制を早急に構築する。
- 病院間での連携を強化し、お互いの役割分担などを検討しながら病院の機能分化を図る。
- 自治体、病院、住民が協力して、地域医療を支える。

地域推薦枠医学生の卒前・卒後教育をどうするか？  
～大学と自治体の連携に関するシンポジウム～

# 島根県での取り組み

## 島根大学



島根大学医学部  
地域医療教育学講座  
熊倉俊

2010.2.19

## 地域枠推薦入学生の年次推移予測

	H18年	H19年	H20年	H21年	H22年	H23年	H24年	H25年	H26年	H27年	H28年	H29年
後期研修医5年目												3
後期研修医4年目											3	9
後期研修医3年目										3	9	13
後期研修医2年目									3	9	13	13
後期研修医1年目								3	9	13	13	18
初期研修医2年目						3	9	13	13	18	18	18
初期研修医1年目					3	9	13	13	18	18	18	18
6年生				3	9	13	13	18	18	18	18	18
5年生			3	9	13	13	18	18	18	18	18	18
4年生		3	9	13	13	18	18	18	18	18	18	18
3年生	3	9	13	13	18	18	18	18	18	18	18	18
2年生	6	6	10	10	15	15	15	15	15	15	15	15
1年生	6	10	10	15	15	15	15	15	15	15	15	15
合計	6	19	32	50	68	86	104	122	140	158	176	194

\* 平成21年度からは、緊急医師確保策入学者数を含む

### 地域枠推薦

H18年度から実施

将来、出身の県内へき地の地域医療に貢献する医師を養成

地域枠【10名以内】  
県内へき地出身者

学士入学  
【3名以内】  
3年次編入学  
H19年度から

出身のへき地医療に貢献する  
強い意志のあるものを発掘・選抜

#### 『適正評価』

- ・ 県内へき地医療機関及び社会福祉施設での医療福祉体験活動（計8日以上）に基づく評価
- ・ 市町村長等による面接評価

### 緊急医師確保対策による選抜

H21年度から導入

奨学金制度を活用し、卒後の早い時期から、県内へき地における地域医療に貢献する医師を養成

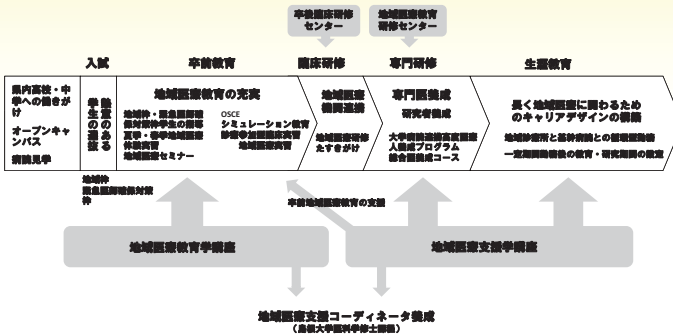
【5名】  
出身地は問わない

島根県のへき地医療に貢献する  
強い意志のあるものを発掘・選抜

#### 『適正評価』

- ・ 県内へき地医療機関及び社会福祉施設での医療福祉体験活動（5日以上）に基づく評価
- ・ 県担当者等による面接評価

島根大学医学部における卒前卒後の一貫した地域医療教育の充実



### 乙立里家診療所での臨床実習

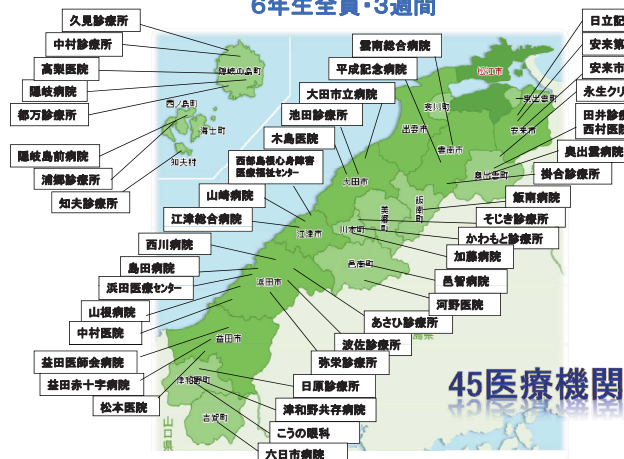


- \* プライマリーケアの現場を体験できて、とても良い経験になりました。
- \* 地域医療の良さを実感し、将来地域医療を是非やってみてみたいと思った。
- \* 自分が目指した医療があった気がする。特に時間に追われず、患者さんをじっくりみる事ができてよかったです。

学生の感想より抜粋

## 島根大学医学部地域医療実習

6年生全員・3週間



## 地域医療実習 学生の感想

- \* この病院のように地域密着型の病院があることで、地元の方も安心して医療が受けられるし、毎日が健やかに暮らせるのだと思います。将来私も〇〇先生のように地域に、島根県民に貢献できる医師になりたい。
- \* 隠岐を愛し、隠岐の住民を愛し、治療だけでなく人として関わっている先生方の姿をみて、目の覚めるような思いがしました。

★患者さんにとってのよりよい医療の在り方を、医療関係者全員で日々考えておられるのを見て、とても感動しました。医療とはこうあるべきだ！と感じました。

★地域医療は、決して使命感だけではできない。〇〇院長らの実に楽しんで仕事しておられる様はとても新鮮で、「地域で生きる」ことを楽しむ姿勢こそが地域医療にだいじなのだと感じた。

平成17年度文部科学省GP  
地域医療等社会的ニーズに対応した医療人教育支援プログラム

夢と使命感を持った地域医療人の育成

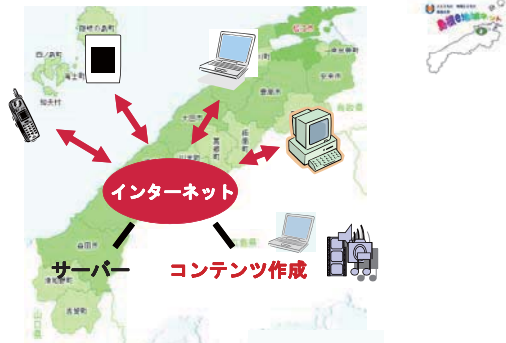
海外医学教育視察体験 のべ146名が参加

島根県のへき地医療を担う地域医療人育成  
地域医療へ夢と使命感を  
指導医の意識改革

平成18年度文部科学省GP  
現代的教育ニーズ取組支援プログラム

地域医療教育遠隔支援e-ラーニングの開発

地域医療病院・保健福祉施設実習における医学・看護学統合型e-ラーニングシステムの構築



Washington Montana Wyoming  
ワシントン モンタナ ワイオミング



WWAMI

卒業生の61%が各州に残り地域医療に従事

卒業生のほぼ50%が職業としてプライマリケアを選択

米国WWAMIプログラム成功の秘訣

地域に愛着・愛情のある者の発掘と選抜

地域に密着した実践的な地域医療教育

地域と大学・都市を結ぶ通信システムの構築

ワシントン大学家庭医学講座 教官より

大学病院連携型高度医療人養成推進事業

山陰と阪神を結ぶ医療人養成プログラム

—地域医療と高度先進医療の融合による  
新たな教育システムの構築—

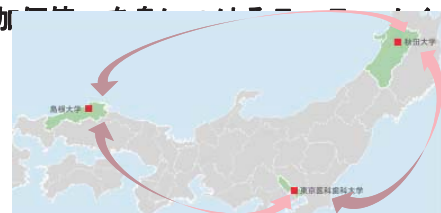


島根大学、鳥取大学、神戸大学、兵庫医大

大学病院連携型高度医療人養成推進事業

都会と地方の協調連携による高度医療人養成

—「付加価値教育」による「高度研修」—



東京医科歯科大学、秋田大学、島根大学

## 山陰と阪神を結ぶ医療人養成プログラム -地域医療と高度先進医療の融合による 新たな教育システムの構築-

- ❖ 島根大学、神戸大学、鳥取大学、兵庫医科大学の4大学が連携して相互補完を図り、魅力的な専門医・臨床研究者養成プログラムを策定・実施
- ❖ 大学及び関連医療機関との連携により地域医療から高度先進医療まで幅広い分野での専門研修を効率よく行い、専門医取得のみならず大学院における専門的な臨床研究を実施
- ❖ チーム医療を実践し、患者中心の良質な医療を提供出来る医療人を育成

## 山陰と阪神を結ぶ医療人養成プログラム -地域医療と高度先進医療の融合による 新たな教育システムの構築-

質の高い

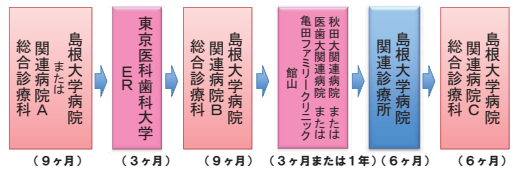
①専門医、②臨床研究者 養成

- ★ 大学病院専門医研修者・臨床研究者の増加  
⇒ 大学病院の機能強化
- ★ 関連医療機関での専門研修（研修医循環）  
⇒ 地域医療へ貢献

### 地域医療・家庭医療専門医コース（島根重点コース）

島根及び秋田大学関連病院・診療所での地域医療・家庭医療と東京医科大学大学院ER救急での救急医療。充実したプライマリケア研修が可能！

<コース例> 希望に対応したフレキシブルなコース設定が可能です



取得可能な専門医

家庭医専門医<sup>1)</sup>  
内科認定医  
(総合内科専門医<sup>2)</sup>)

<sup>1)</sup> 家庭医学会認定は  
現時点で未定  
<sup>2)</sup> 5年以上の内研修  
を行うことで取得可能

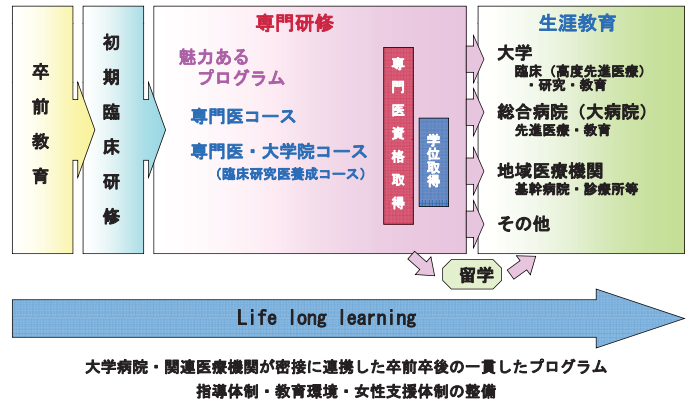
#### 島根大学関連病院

- ① 島根大学病院: 国産の中核病院。救急医療、総合医療を研修。青い海、豊かな自然。
- ② 尾道島前病院: 離島医療従事者。自家用クルーザーで離島をエンジョイするリスパタ院長のもと総合医として研修。雄大な自然。
- ③ 出雲市立総合医療センター: 地域の基幹病院。大学との連携。宍道湖、日本海など自然多し。
- ④ 奥出雲病院: 地域住民の信頼。たたら製鉄、砂の島のロケ地である。
- ⑤ 福寿総合病院: 総合診療科。加齢社会意識(高齢多発出土)、温泉、豊かな里が有名。
- ⑥ 大田市立病院: 地域の総合病院。世界遺産・石見銀山あり。
- ⑦ 島智病院: 島智院長のもと救急医療、総合医療を研修。温泉、自然に恵まれる。
- ⑧ 加藤病院: 病院での総合診療と在宅、山間部診療が特徴。川、海、山に温泉に恵まれる。
- ⑨ 浜田医療センター・救急・救急・救急診療所: センター・診療所の連携プレー、適切な指導医。雄大な自然。
- ⑩ 津和野病院・日原診療所: 地域の重要な医療機関。小京都、里の降る夜望が有名。舞鶴外生島の地。

循環する病院、診療所は、希望により選択することが可能です

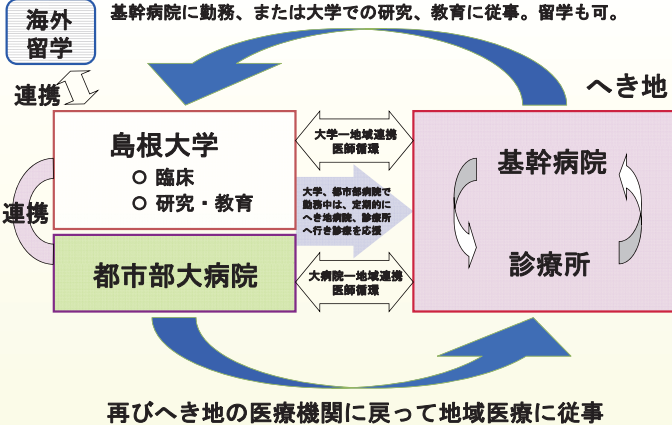


### 卒前教育から生涯教育まで一貫した 医師キャリア形成システム



### 生涯教育 長く地域医療に関わるためのキャリアデザイン

一定期間のへき地勤務後スキルアップのために大学病院、都市部の基幹病院に勤務、または大学での研究、教育に従事。留学も可。



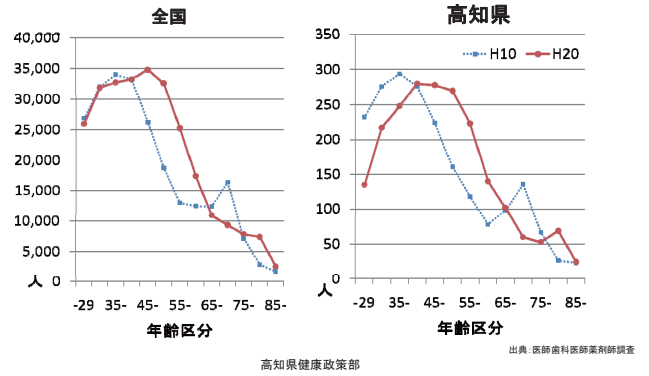


## 高知県としての地域推薦枠と若手医師のキャリア形成支援

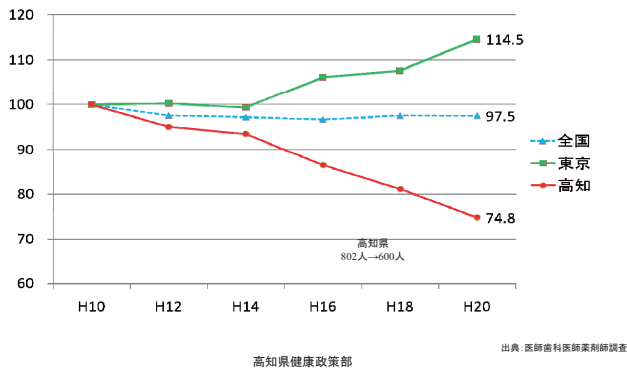
高知県健康政策部医師確保推進課  
家保 英隆

高知県健康政策部

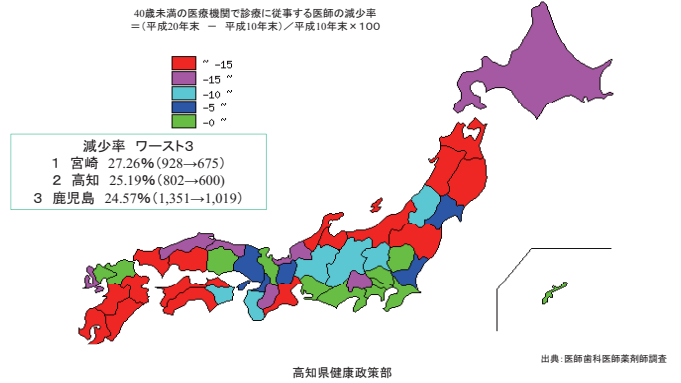
## この10年の医師の年齢構成の変化



## 40歳未満の医師数の推移 —平成10年末を100として—

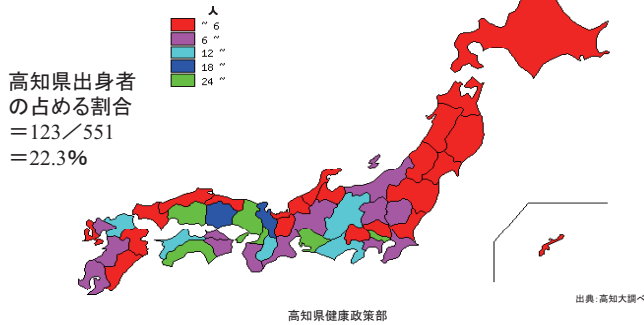


## 都道府県別40歳未満医師の減少率



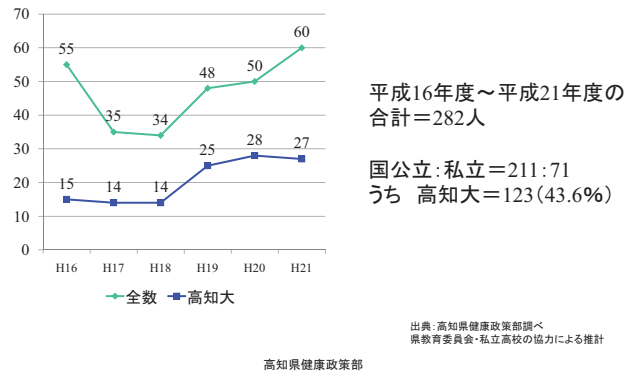
## 高知大学医学部生の出身都道府県 (平成16年度～平成21年度の合計)

(但し: 学士入学を除く)



## 高知県内高校からの医学部進学者

(但し: 学士入学を除く)



## 県としての施策のポイント

1. 県内高校生等の医学部進学増加
  - 地元大学への地域枠の新設
  - 県内高校での医学部進学のPR
2. 高知大学医学部生の卒後の高知定着の増加
  - 奨学金制度の創設
  - 地域及び県内医療への親近感の向上
  - 県内での臨床研修の魅力向上
  - 医師としてのキャリア形成の支援

高知県健康政策部

## 地元大学への地域枠の新設

- 平成20年度
  - 推薦入試(高知県枠)定員10名以内を創設  
高知県内の高校出身者で現役又は一浪の入学希望者を対象とし、高知県の奨学金制度の申請を要件  
出願者11名 → 合格 2名
- 平成21年度
  - 推薦入試Ⅱ(四国国瀬戸内枠)定員15名以内に変更  
高知・徳島・香川・愛媛・兵庫・岡山・広島・山口の8県の高等学校の出身者で現役又は一浪の入学希望者を対象とし、高知県の奨学金制度の申請を要件  
出願者45名 → 合格9名(うち高知県6名)
- 平成22年度
  - 推薦入試Ⅱ(四国国瀬戸内枠)定員15名以内は継続  
出願者 59名 → 合格?名(うち高知県?名)
  - 一般入試(前期日程)の地域枠希望定員7名以内を追加  
出身高校等の要件はないが、高知県の奨学金制度申請は要件

高知県健康政策部

## もう一つの地域枠 (高知大学医学部AO入試)

- 平成15年度から実施  
H15 定員20名以内 → H18以降定員30名以内
- 現役又は一浪の入学希望者で、本学部への志望動機が明確であり、高知県内の地域医療に従事する強い意欲を持つとともに、卒業後は高知県内の地域医療に貢献することができる者が要件
- 出願者→合格者→うち県内出身者
 

H15	86	→	20	→	12
H16	101	→	20	→	9
H17	203	→	20	→	6
H18	176	→	30	→	6
H19	275	→	30	→	15
H20	171	→	30	→	18
H21	172	→	30	→	18

高知県健康政策部

## 県としての施策のポイント

- 県内高校生等の医学部進学増加
  - 地元大学への地域枠の新設
  - 県内高校での医学部進学のPR
- 高知大学医学部生の卒後の高知定着の増加
  - 奨学金制度の創設
  - 地域及び県内医療への親近感の向上
  - 県内での臨床研修の魅力向上
  - 医師としてのキャリア形成の支援

高知県健康政策部

## 高校生・地元高校へのPR

- 自治医科大学の説明会に併せて、医学部についての説明会を夏休み時に実施  
県内3校で実施
- 県内高校から医師の仕事及び医学部の状況について説明会希望があれば別途対応  
本年度は3校から要望

高知県健康政策部

## 奨学金制度の創設

- 平成19年度に創設
  - 一般奨学金 15万/月
  - 特定科目加算 8万/月
  - (産婦人科、小児科、脳神経外科、麻酔科)
- 償還免除要件  
知事が指定する医療機関(高知県中央部の高知市・南国市等以外の周辺部の基幹病院等)に貸与期間の1.5倍を勤務(実質的には、高知大学病院の各医局の人事に則って勤務すれば償還免除になるよう、大学と県とで人事を調整)
- 実績
  - H19 新規11人(うち高知大7)
  - H20 新規12人(うち高知大11)
  - H21 新規15人(うち高知大14)
  - 新規+継続 32人(うち高知大28人)
  - (うち特定科目加算5)

高知県健康政策部

## 地域及び県内医療への親近感の向上

- 県寄付による講座(家庭医療学講座)の開設 H19年7月～
- 開設時の県としての考え方
  - ① 医師不足地域に拠点を置くような派遣型寄付講座でなく、大学本拠で研究・学生教育等を担う養成型寄付講座
  - ② 講座の長は教授級とし、県からの推薦を尊重して大学が選考
  - ③ 文部科学省通知により開設期間は5年とするが、継続設置を当初から想定
  - ④ 委託講座でなく寄付講座であることから、活動内容は教授の裁量で
  - ⑤ 奨学金貸与者だけでなく、高知大医学部生全員、そして、高知で地域医療に従事しようという意思のある医学生・医師をターゲットに
- 具体的な活動は次の阿波谷教授のお話で..

高知県健康政策部

## 県内での臨床研修の魅力向上 医師としてのキャリア形成の支援

平成21年度第1次補正予算に基づく  
地域医療再生臨時特例交付金を活用

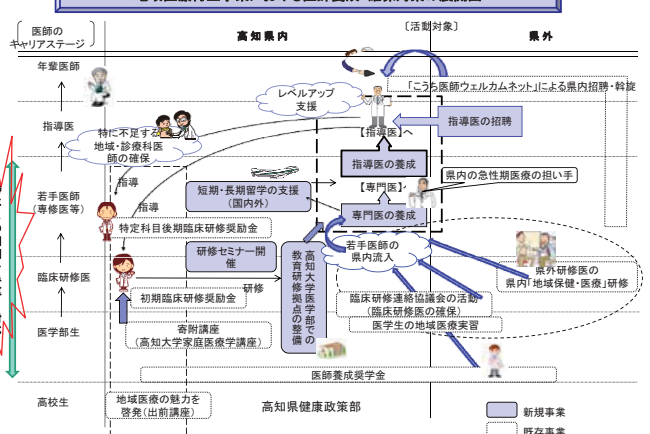
高知県の地域事情を踏まえた  
専門医と病院GPの両者の養成・定着支援

高知県健康政策部

### 地域医療再生臨時特例基金の事業概要 【基金造成額：59億円 (H21～25)】



### 地域医療再生事業における医師養成・確保対策の展開図



### 1. 地域医療教育研修拠点施設整備事業

#### 事業概要

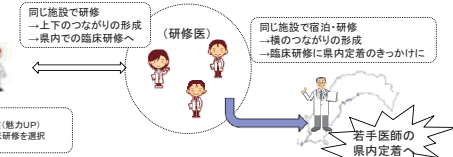
若手医師に魅力のある支援・環境づくりのため、県内で唯一の医療機関である高知大学と連携した研修拠点の整備を行う。

#### 整備内容

高知大学医学部(岡豊キャンパス)の一角に教育研修及び宿泊機能を持った施設の整備(鉄筋RC造5階建)



#### 効果

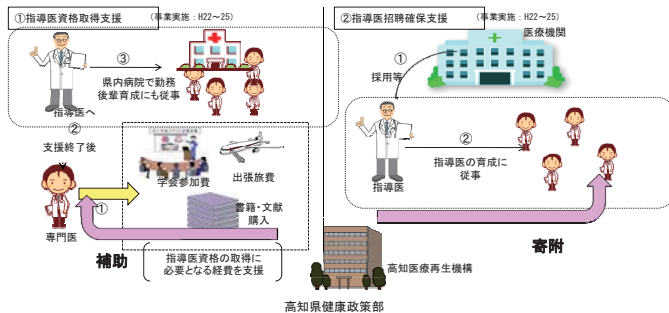


高知県健康政策部

### 2-1(1)指導医の育成及び確保支援事業

#### 事業概要

- ①指導医を目指す専門医に対する、資格取得に向けた研修経費を支援
- ②指導医資格を有する医師を招聘・確保し、指導医養成事業を実施する医療機関を支援

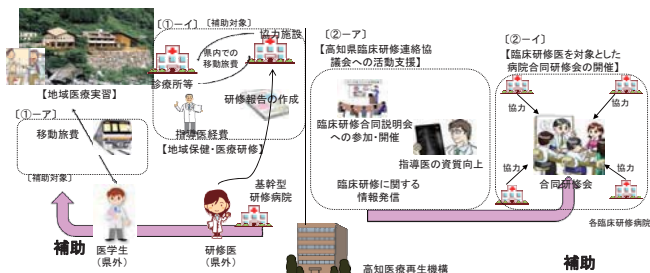


高知県健康政策部

### 2-2(2)医学生・研修医の高知県内研修支援事業

#### 事業概要

- ①医学生・研修医が県内で実施される地域医療実習等の参加経費を支援
- ②県内の臨床研修の質及び量の向上を図る事業に対して補助

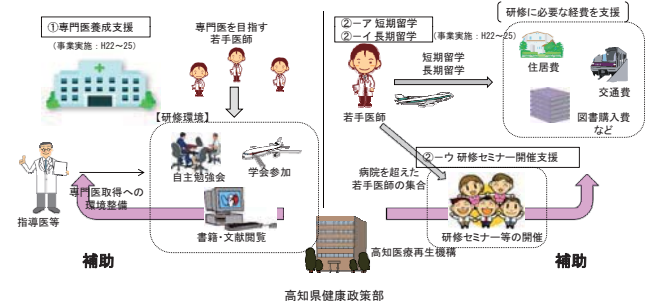


高知県健康政策部

### 2-2(3)若手医師レベルアップ事業

#### 事業概要

- ①研修病院の指導医等が、若手医師の専門医資格取得のための環境を整備する経費を支援
- ②県内の若手医師が先進的医療機関へ留学する経費や、レベルアップのために開催する研修セミナー等の開催について支援

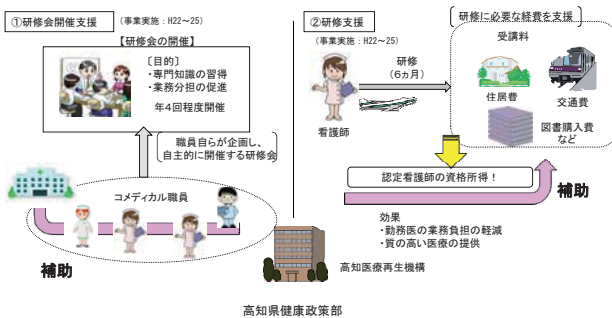


高知県健康政策部

### 2-4(4)コメディカル資質向上支援事業

#### 事業概要

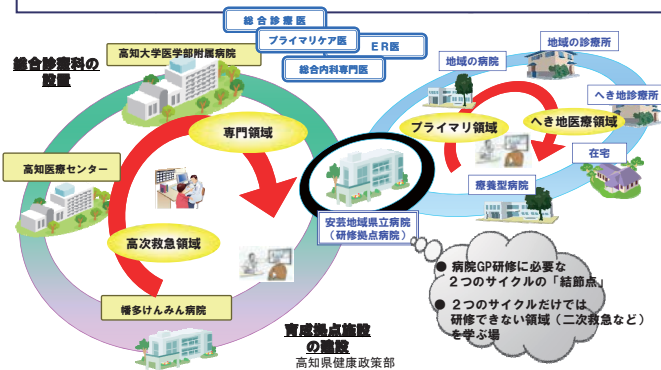
- ①コメディカル職員が知識習得などのために、自主的に開催する研修会の経費を支援
- ②高度な技術を有する認定看護師等の資格を取得するための長期研修を支援



高知県健康政策部

## 高知県の「病院GP養成」の仕組み

病院GPが安心できる(様々な可能性へ展開できる)高知県独自の仕組み



●病院GP研修に必要な2つのサイクルの「結節点」  
●2つのサイクルだけでは研修できない領域(二次救急など)を学ぶ場

高知県健康政策部

## 高知大学医学部での地域枠の現状

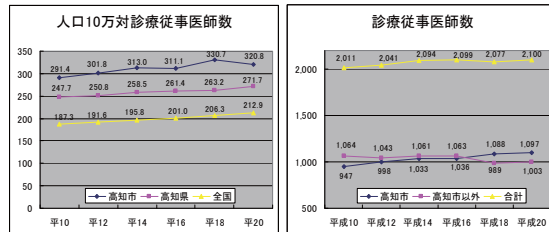


高知大学医学部家庭医療学講座  
阿波谷敏英

2010/2/19

地域推薦枠の卒前卒後教育

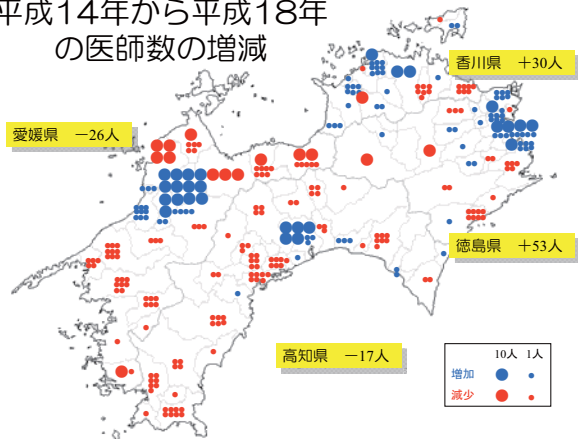
## 高知県の医師数推移



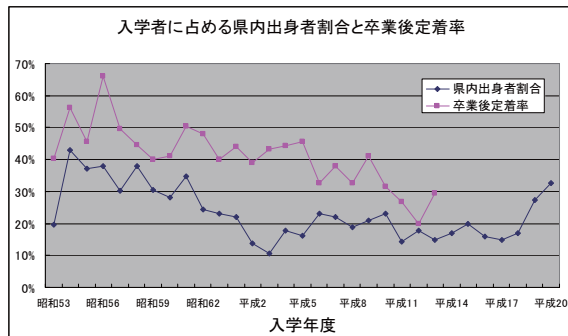
2010/2/19

地域推薦枠の卒前卒後教育

## 平成14年から平成18年の医師数の増減



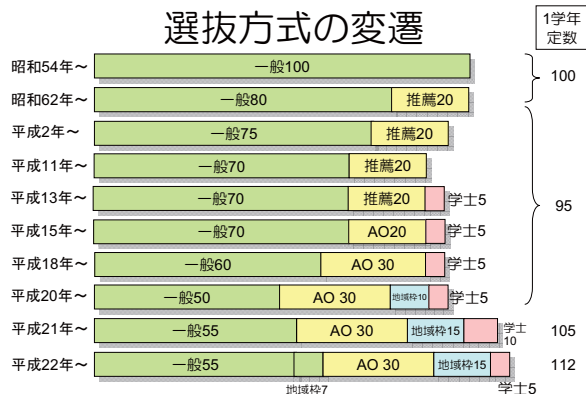
## 入学者に占める県内出身者割合と卒業後定着率



2010/2/19

地域推薦枠の卒前卒後教育

## 選抜方式の変遷



## 地域枠選抜試験

	定数	入学	出身地
平成20年度	10名	2名	高知県
平成21年度	15名	9名	四国瀬戸内
平成22年度	22名	?名	四国瀬戸内



2010/2/19

地域推薦枠の卒前卒後教育

## 高知県医師養成奨学貸与金

- 対象
  - 医学部1年生から6年生まで
- 金額
  - 月15万円
  - 特定診療科目\*加算：月額8万円

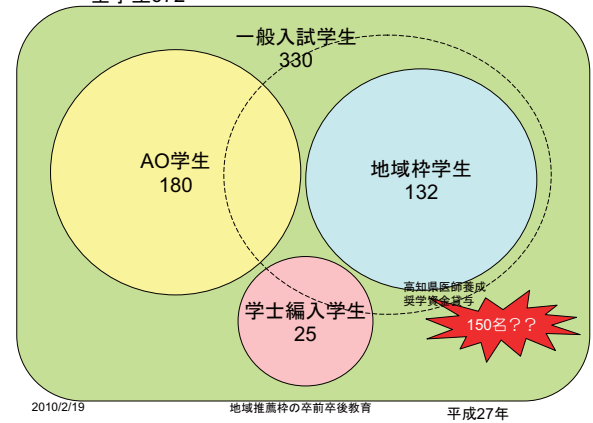
\*産婦人科、小児科、麻酔科、脳神経外科
- 償還免除
  - 卒業後、高知県内の臨床研修病院で初期臨床研修
  - その後に知事の指定医療機関で医師として貸与を受けた期間の1.5倍に相当する期間勤務



2010/2/19

地域推薦枠の卒前卒後教育

全学生672



2010/2/19

地域推薦枠の卒前卒後教育

平成27年

## 入学定員を増やせばいい？

- 医師数は増えていても地域偏在は解決していない。
- 教員の負担感
- 地域枠学生の戸惑い？
- 自治医大と地域枠の違い？



地域医療教育の充実（すべての学生に）  
地域枠学生のモチベーションを下げない  
ようなキャリア形成支援、メンタリング

2010/2/19

地域推薦枠の卒前卒後教育

## 高知大学の地域医療教育

1. すべての学生に充実した地域医療教育
2. 地域枠・奨学金学生サポート
3. 自由な学習機会



2010/2/19

地域推薦枠の卒前卒後教育

## 高知大学の地域医療教育

1. すべての学生に充実した地域医療教育
  - ◆ EME初期臨床医学体験（1年生）
  - ◆ 地域医療実習、プライマリ・ケア実習（5年生）
  - ◆ 地域医学（6年生→3年生）



地域と協働した  
医学教育を！



2010/2/19

地域推薦枠の卒前卒後教育

## 高知県の地域医療を知るために



### 三次医療機関

高知大学医学部附属病院：クリニカルクラークシップ



### 二次医療機関

県内臨床研修病院：クリニカルクラークシップ  
県立幡多けんみん病院：幡多地域医療道場



### 一次医療機関

土佐山へき地診療所：診療施設体験、地域医療実習  
その他のへき地医療機関：地域医療実習  
市中クリニック、在宅：プライマリ・ケア実習、EME  
家庭医療道場、高知県夏期へき地医療実習

2010/2/19

地域推薦枠の卒前卒後教育

### ◆ EME初期臨床医学体験（1年生）

- 外来つきそい実習 1日
- BLS実習 1日
- 附属病院 3日
  - ◎ 薬剤部または検査部
  - ◎ 放射線部またはリハビリテーション部
  - ◎ 看護部
- 施設 3日
  - ◎ 介護老人福祉施設、介護老人保健施設、重症身体障害児療護施設
- プライマリ・ケア実習 3日
  - ◎ 高知市・南国市の民間診療所

2010/2/19

地域推薦枠の卒前卒後教育

### プライマリ・ケア実習（EME）



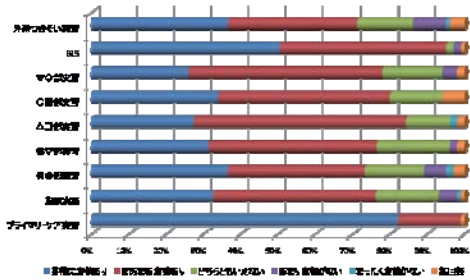
【協力】在宅療養支援診療所ネクストホームクリニック

2010/2/19

地域推薦枠の卒前卒後教育

### 平成21年度 EME終了後アンケート結果

対象1年生101人



2010/2/19

地域推薦枠の卒前卒後教育

### ◆ プライマリ・ケア／地域医療実習（5年生）

- オリエンテーション 1日
- プライマリ・ケア 3日
- 介護老人福祉施設 1日
- 介護老人保健施設 0.5日
- 産業保健実習 0.5日
- へき地診療所、病院 2日
- 福祉保健所 1日
- まとめ 1日

2010/2/19

地域推薦枠の卒前卒後教育

### ◆ プライマリ・ケア実習（5年生）

中央医療圏の医療機関  
16病院、31診療所



2010/2/19

地域推薦枠の卒前卒後教育

### ◆ 地域医療（へき地診療所）実習



平成11年  
高知医大卒

平成22年  
高知大卒（予定）

【協力】仁淀川町国保大崎診療所

2010/2/19

地域推薦枠の卒前卒後教育

## 学生アンケート結果

医学科6年生93名を対象、回答者82名（平成20年6月実施）  
 クリニカルクラークシップでまわった22診療科を評価

### 1. 実習に対する教員の熱意はどうか？

22診療科中 プライマリ・ケア実習 第5位  
 地域医療実習 第8位

### 2. 医療チームの一員として学生を診療に参加させているか？

22診療科中 プライマリ・ケア実習 第2位  
 地域医療実習 第8位

### 3. 今後の実習内容についてこれでいいか？

22診療科中 プライマリ・ケア実習 第3位  
 地域医療実習 第5位

2010/2/19

地域推薦枠の卒前卒後教育

## 高知大学の地域医療教育

### 2. 地域枠・奨学金学生サポート

- ◆ サポート体制づくり
- ◆ 高知県と協働した夏期実習
  - 高知県夏期へき地医療実習
  - 幡多地域医療道場



2010/2/19

地域推薦枠の卒前卒後教育

## 地域枠用の仕組みなど

地域枠学生等アドバイザーWG

地域枠学生等メーリングリスト

入学式後の医学部長訓示

高知県知事との意見交換会

2010/2/19

地域推薦枠の卒前卒後教育

## 知事との意見交換会 2009/11/11

一緒に高知県  
を変えよう！



2010/2/19

地域推薦枠の卒前卒後教育

## 高知県内 夏期地域医療実習のご案内

★☆ 夏休みに高知県の地域医療を体験してみませんか？ ★☆

※この実習は高知県医師会奨励金受給学生を対象としたものですが、一般学生の参加も可能です。卒業後、高知県内で地域医療に携わること考えている学生であれば歓迎します。  
 ※実習内容は色んなメニューをご用意しますので学年でも参加可能です。  
 ※受け入れ可能人数を超える場合は、調整をさせていただきます可能性があります。

### 幡多地域医療道場

実施主体 家庭医学講座、地域枠学生サポートWG  
 実施日 平成21年8月25日（火）～27日（木）  
 実施場所 国立幡多けんみん病院  
 募集人数 医学部学生20名程度  
 参加費 1,000円（参加費として）  
 実習内容 幡多地域の医療の現状の学習、病歴医師とマンツーマンの医療体験、意見交換会

<特徴> 幡多地域の医療を体験し、地域医療について理解を深めましょう。大学から貸切バスで往復、大学の教員が同行し完全サポートします。

問合せ先 高知県医師会地域医療推進課（担当）藤原  
 132001@ken.pref.kochi.jp  
 家庭医学講座 阿波谷（課長）F  
 ken@kaiyaku.kochi-u.ac.jp

申込みは 詳細は 実習合同説明会  
 平成21年7月2日（木）午後6時30分  
 講義棟 第3講義室

### 高知県へき地医療夏期実習

実施主体 高知県、高知県へき地医療協議会  
 実施日 平成21年8月20日（木）～22日（土）  
 実施場所 県内医療機関 4病院6診療所（予定）  
富山診療所（富山町小松診療所）、高島診療所、大野診療所、高土診療所、高土診療所、高土診療所、高土診療所  
 募集人数 医学部学生10名程度（他に自治体大学生が参加します）  
 参加費 1,000円（参加費として）  
 実習内容 幡多地域の医療の現状の学習、病歴医師とマンツーマンの医療体験、意見交換会

<特徴> へき地医療の現場に実際に赴いてみる貴重な機会です。へき地医療に従事する医師や看護士、コ・メディカルスタッフ、行政担当者と一緒に働くのってありませんか？

問合せ先 高知県医師会地域医療推進課（担当）藤原  
 132001@ken.pref.kochi.jp  
 家庭医学講座 阿波谷（課長）F  
 ken@kaiyaku.kochi-u.ac.jp

申込みは 詳細は 実習合同説明会  
 平成21年7月2日（木）午後6時30分  
 講義棟 第3講義室

## 高知県の地域医療を知るために

### 三次医療機関

高知大学医学部附属病院：クリニカルクラークシップ

### 二次医療機関

県内臨床研修病院：クリニカルクラークシップ  
 国立幡多けんみん病院：幡多地域医療道場

### 一次医療機関

土佐山へき地診療所：診療施設体験、地域医療実習  
 その他のへき地医療機関：地域医療実習  
 市中クリニック、在宅：プライマリ・ケア実習、EME  
 家庭医療場、高知県夏期へき地医療実習  
 地域推薦枠の卒前卒後教育

2010/2/19

地域推薦枠の卒前卒後教育



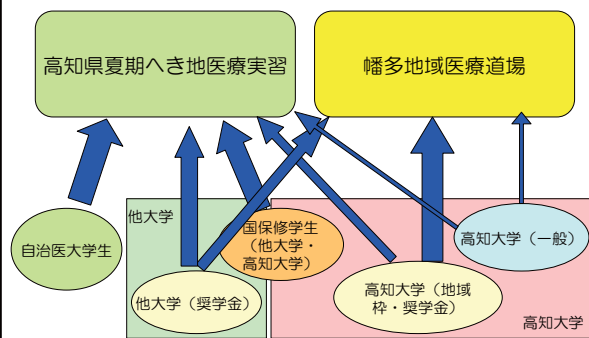
## 平成21年度 夏期地域医療実習

	幡多地域医療道場	高知県夏期へき地医療実習
実施主体	高知大学医学部 家庭医療学講座 地域枠学生アドバイザーWG	高知県 高知県へき地医療協議会
対象者	自治医科大学高知県出身学生 国保修学生（高知大学、他大学） 医師養成奨学金受給者（高知大学、他大学） 高知大学医学部一般学生	
参加者	高知大学：19名 他大学：2名	自治医科大学：11名 高知大学：20名 他大学：2名

2010/2/19

地域推薦枠の卒前卒後教育

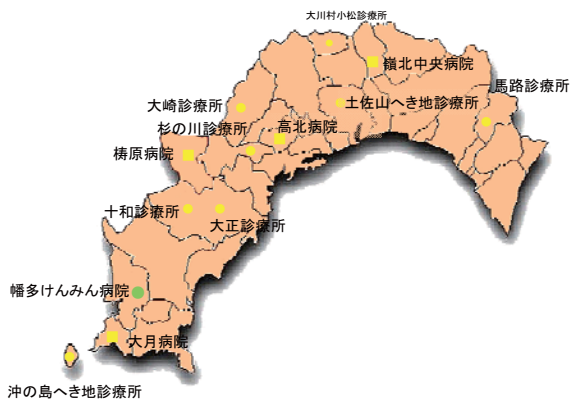
## 夏期地域医療実習



2010/2/19

地域推薦枠の卒前卒後教育

## 平成21年度 夏期地域医療実習



## 幡多地域医療道場



2010/2/19

地域推薦枠の卒前卒後教育

医師も学生も楽しい!

## 高知県夏期へき地医療実習



2010/2/19

地域推薦枠の卒前卒後教育

## 大切なこと

- 将来のロールモデルを見せる
- 地域枠学生の仲間意識の醸成
  - 他大学の学生とも交流
  - マイノリティ意識を持たせない
- 普段から相談できる体制づくり



2010/2/19

地域推薦枠の卒前卒後教育



## 高知県の地域医療を知るために

### 三次医療機関

高知大学医学部附属病院：クリニカルクラークシップ

### 二次医療機関

県内臨床研修病院：クリニカルクラークシップ

県立幡多けんみん病院：幡多地域医療道場

### 一次医療機関

土佐山へき地診療所：診療施設体験、地域医療実習

その他のへき地医療機関：地域医療実習

市中クリニック、在宅：プライマリ・ケア実習、EMF

家庭医道場、高知県夏期へき地医療実習

地域推薦枠の卒前卒後教育

2010/2/19

## 家庭医道場

第6回(高岡郡桝原町)  
平成21年10月31日、11月1日

第4回(高岡郡桝原町)  
平成20年12月13,14日

第1回(高岡郡桝原町)  
平成19年12月1,2日

第5回(安芸郡馬路村)  
平成21年4月25,26日

第2回(安芸郡馬路村)  
平成20年3月29,30日

家庭医道場とは・・・  
地域に赴き、地域の人々と接し、  
地域を知る課外活動  
(主催：家庭医療学講座)

第3回(宿毛市沖の島町)  
平成20年8月8-10日

2010/2/19

地域推薦枠の卒前卒後教育



2010/2/19

地域推薦枠の卒前卒後教育



2010/2/19

地域推薦枠の卒前卒後教育



地域推薦枠の卒前卒後教育

## 高知大学の地域医療教育

### 3. 自由な学習機会

- ◆ 家庭医道場
- ◆ 土佐山へき地診療所
- ◆ リサーチコース
- ◆ クラブ活動など



2010/2/19

地域推薦枠の卒前卒後教育

## 高知県の地域医療を知るために

### 三次医療機関

高知大学医学部附属病院：クリニカルクラークシップ

### 二次医療機関

県内臨床研修病院：クリニカルクラークシップ  
 県立幡多けんみん病院：幡多地域医療道場

### 一次医療機関

土佐山へき地診療所：診療施設体験、地域医療実習  
 その他のへき地医療機関：地域医療実習  
 市中クリニック、在宅：プライマリ・ケア実習、EME  
 家庭医道場、高知県夏期へき地医療実習  
 地域推薦枠の卒前卒後教育



2010/2/19

## 土佐山へき地診療所の指定管理

平成20年7月～

医学教育の場として活用予定



2010/2/19

地域推薦枠の卒前卒後教育



## 地域枠について感じること

- 意識の低さ（学生、大学教員）を変えていかないと・・・
- アウトカムが「地域定着率」なの？
- 地域、行政、大学で協働してオール高知県で努力すべき
- 学生には「医の中の蛙」にならないで欲しい・・・

2010/2/19

地域推薦枠の卒前卒後教育

平成22年2月19日

## 地域推薦枠医学生の卒前・卒後教育をどうするか？ ～大学と自治体の連携に関するシンポジウム～

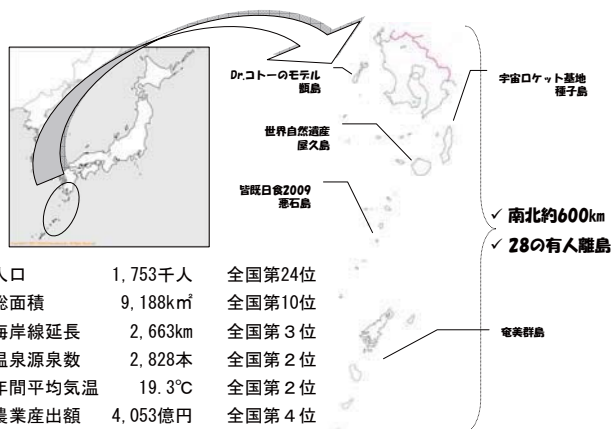
### 鹿児島県の取り組み

鹿児島県 保健福祉部 医療制度改革推進室  
室長補佐 永山 達也

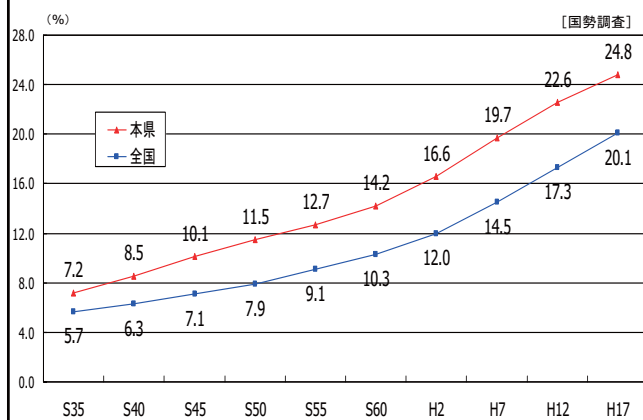
## 本日お話しすること

- 「かごしま」の概況
- 鹿児島県の医師不足の状況
- 鹿児島県の医師確保対策
- 鹿児島県の修学資金貸与制度
- 地域枠学生との関わり

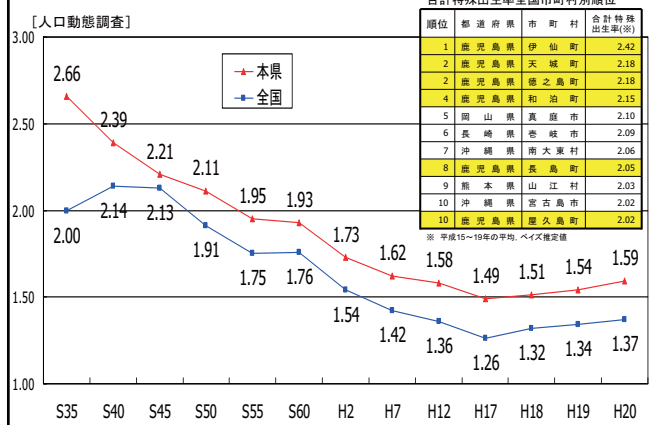
### 「かごしま」の概況



### 高齢化率の推移



### 合計特殊出生率の推移



### 本県離島の現況

(鹿児島県離島の全国の離島に占める位置)

区分	鹿児島県離島(A)		全国離島(B)	A/B	全国順位	時点
	一般離島	奄美				
人口(人)	56,119	126,483	182,602	26.4%	1	H17.10.1
面積(km <sup>2</sup> )	1,253.30	1,231.24	2,484.54	32.8%	1	H17.10.1

(有人離島の状況)

No	島名	人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	無医島	所在市町村
1	獅子島	851	17.05	○	長島町
2	桂島	18	0.33	○	出水市
3	上飯島	2,750	44.14		薩摩川内市
4	中飯島	347	7.30		薩摩川内市
5	下飯島	3,109	66.12		薩摩川内市
6	新島	5	0.13	○	鹿児島市
7	竹島	83	4.20	○	鹿児島市
8	硫黄島	140	11.65		三島村
9	黒島	239	15.37	○	三島村
10	口之島	125	13.33	○	三島村
11	中之島	173	34.47		三島村
12	平島	82	2.08	○	三島村
13	猿訪之瀬島	49	27.66	○	十島村
14	壱石島	94	7.49	○	十島村
15	小宝島	48	1.00	○	十島村
16	宝島	102	7.14	○	十島村
17	種子島	34,128	444.99		西之表市、中種子町、南種子町
18	馬毛島	15	8.20	○	西之表市
19	屋久島	13,614	504.88		屋久島町
20	口永良部島	147	35.77		奄美市、大和村、宇核村、瀬戸内町、龍郷町
21	奄美大島	68,617	712.38		奄美市、大和村、宇核村、瀬戸内町、龍郷町
22	加計呂麻島	1,547	77.39		瀬戸内町
23	請島	161	13.34	○	瀬戸内町
24	与論島	137	9.35	○	瀬戸内町
25	喜界島	8,572	56.90		喜界町
26	徳之島	27,167	247.76		徳之島町、天城町、伊仙町
27	沖永良部島	14,551	93.65		和泊町、知名町
28	与論島	5,731	20.47		与論町
計	28島	182,602	2,484.54	14島	

※人口・平成17年国勢調査、面積・離島統計年報2007

### 九州新幹線（鹿児島ルート）全線開業

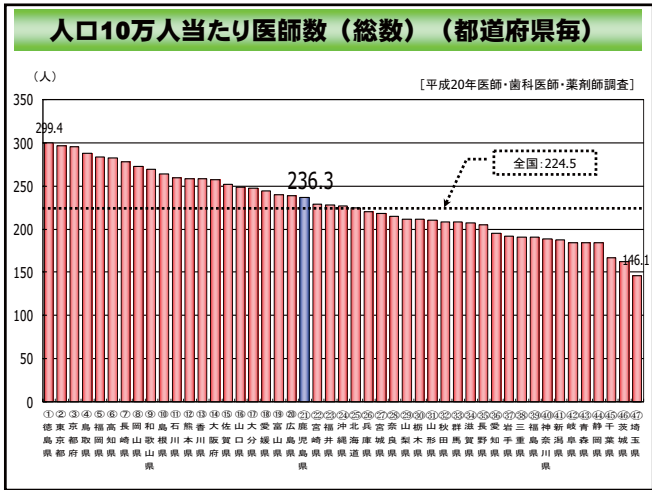
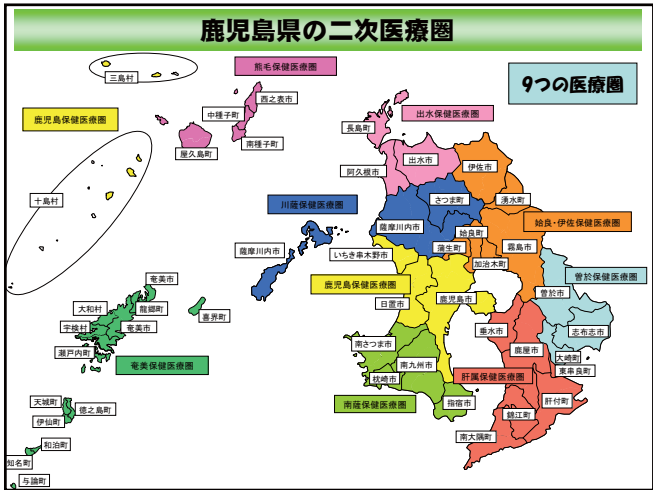
□ 平成23年春、九州新幹線（鹿児島ルート）が全線開業へ！！  
 □ 同時に、鹿児島中央～新大阪間の直通運転も開始「車両名：さくら」

- 鹿児島中央～博多：約1時間20分
- 鹿児島中央～新大阪：約4時間



「気にかかじま」  
 鹿児島へ、一直線です。つながります。

鹿児島県観光情報センター  
 〒890-0001 鹿児島市中央1-1-1

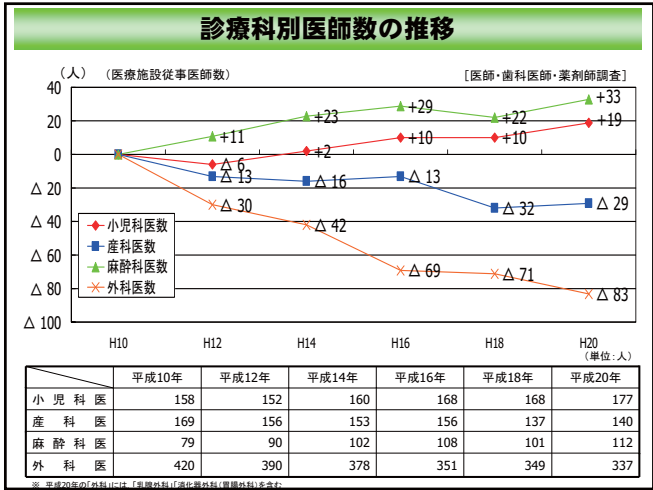
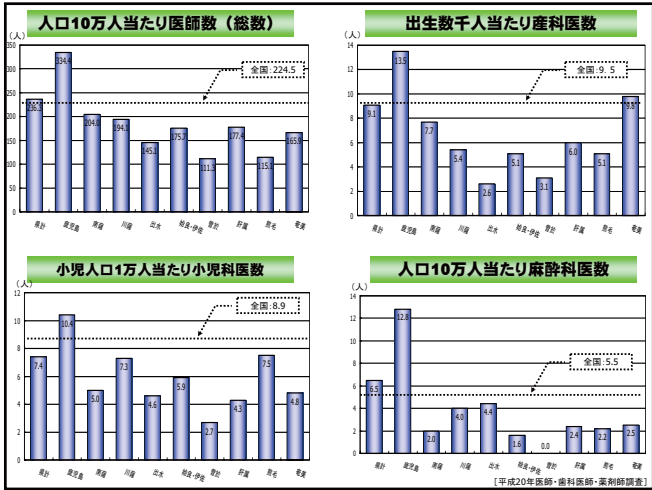


### 地域間・特定診療科間の医師の偏在

[平成20年医師・歯科医師・薬剤師調査]

	人口10万人当たり医師数(総数)	小児人口1万人当たり小児科医数	出生千人当たり産科医数	人口10万人当たり麻酔科医数
全国	224.5人	8.9人	9.5人	5.5人
本県	236.3人	7.4人	9.1人	6.5人
2次医療圏	最大 鹿児島 334.4人	鹿児島 10.4人	鹿児島 13.5人	鹿児島 12.8人
	最小 曾於 111.3人	曾於 2.7人	出水 2.6人	曾於 0.0人
格差	約3倍	約4倍	約5倍	—

※ 2次医療圏は、9圏域に基づく



### 県内の医師不足の具体的事例

**出水総合医療センター**

開設者: 出水市 / 病床数: 334床

内科系医師等の急減(H14:37人→H21:21人)により、神経内科、消化器科などが休診  
⇒ 現在も同様の状況

**県立北薩病院**

開設者: 県 / 病床数: 150床

脳神経外科について、常勤医が不在となり、平成20年10月から非常勤医による週2回の外来診療へ  
⇒ 現在も、非常勤医による週1回の外来診療

**公立種子島病院**

開設者: 公立種子島病院組合 / 病床数: 62床

後任医師の確保ができず、午前中のみでの外来診療に短縮  
⇒ 現在は、医師の確保により通常診療

**■ 地域の拠点的病院における医師不足が顕在化**

**■ その他の病院においても診療科を休診・縮小**

### 県内の医師不足の状況を伝える記事

**外来診療短縮へ**

医師確保後任確保できず

公立種子島病院

(平成20年6月5日付け南日本新聞)

**患者5年で半減**

脳神経外科10月休診へ

医師確保できず2度目

出水総合医療センター

常勤内科医5人態勢から2人へ

診療室が閉鎖も

県立北薩病院

(平成20年9月7日付け南日本新聞)

### 医師不足に対する県の対応

#### 1. 組織の強化 (H20～)

地域医療研修特別顧問 (H21～: 非常勤医師) [ 臨床研修医確保対策の充実・強化 ]

```

    graph TD
      A[医療制度改革推進室長(医師)] --> B[室長補佐]
      B --> C[医療政策係(3)]
      B --> D[医師確保対策係(3)(H21から1増)]
  
```

#### 2. 予算の確保

事業名	H20当初予算額	H21当初予算額	増減	前年比
緊急医師確保対策事業	11,419千円	123,711千円	112,292千円	1,083.4%
地域医療対策基金造成事業	100,000千円	110,800千円	10,800千円	110.8%

### 県の医師確保対策

緊急医師確保対策事業

地域医療を担う医師の養成・確保

医師の勤務環境の改善

- (H18～) 医師修学資金貸与事業
- (H19～) 臨床研修病院合同ガイダンス、パンフレット作成
- (H20～) 「ドクターバンクかごしま」運営
- (H20～) 女性医師就業支援
- (H20～) 地域医療フォーラムの開催
- (H20～) 後期(専門)研修医研修奨励金支給
- (H21～) 地域枠修学生離島・へき地医療実習
- (H21～) 地域医療研修特別顧問配置
- (H21～) 医師勤務環境改善等事業

(H20～) 地域医療対策基金

### 鹿児島県の修学資金貸与と制度

	地域枠			5・6年生枠
	1年次入学者(G5)	1年次入学者(G9)	学士編入学者(G7)	
開始年度	H18～H20	H21～	H21～	H20～
募集枠	毎年度2名	毎年度7名(H22～17名)	毎年度3名	毎年度3名
出身地要件	県内高校(推薦)卒	県内高校(推薦)卒	不問	不問
貸与時期	1年～6年	1年～6年	2年後期～6年	5年～6年
貸与期間	6年間	6年間	4.5年間	1～2年間
貸付額	9,400千円	9,400千円	7,270千円	1年貸与: 900千円 2年貸与: 1,800千円
義務年限	臨床研修 2年 (実務研修 1年) + 勤務 3年 =	臨床研修 2年 + 実務研修 1年 + 勤務 6年 =	臨床研修 2年 + 実務研修 1年 + 勤務 4年 =	臨床研修 2年 (貸付期間に応じ) + 勤務 1～2年 =
臨床研修	県立病院群 鹿大病院	県立病院群 鹿大病院	県立病院群 鹿大病院	県立病院群 鹿大病院
実務研修	(原則) 県立病院	(原則) 県立病院	(原則) 県立病院	—
勤務先	アへき地診療所 イ 国保診療所 ウ 県・市町村設置病院	アへき地診療所 イ 国保診療所 ウ 知事指定病院	アへき地診療所 イ 国保診療所 ウ 知事指定病院	原則、知事指定病院 (本人希望で、へき地・ 国保診療所も可)

### 修学資金貸与の状況

#### 1. 学年毎 (平成21年度)

(単位: 名)

	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生		合計
	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	
地域枠(G5)	—	—	2	2	2	—	—	—	—	—	—	—	6
地域枠(G9)	7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7
地域枠(G7)	—	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3
5・6年生枠	—	—	—	—	—	—	3	—	1	2	4	2	6
合計	7	3	2	2	2	3	0	1	2	14	8	22	

(平成22年2月1日現在)

#### 2. 年度毎

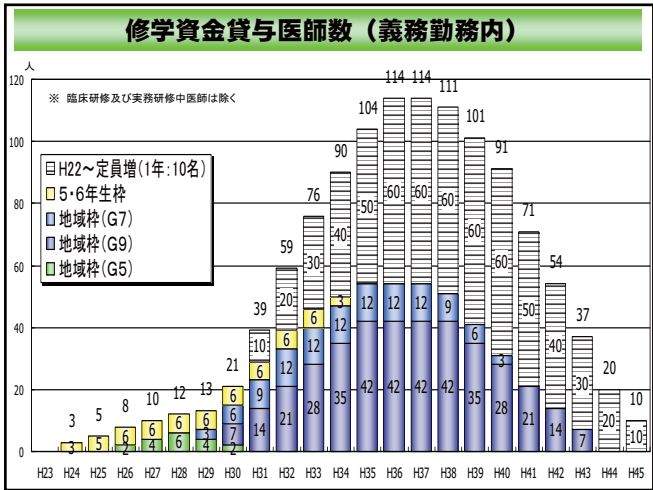
(単位: 名)

	18年度		19年度		20年度			21年度		
	新規	継続	新規	継続	新規	継続	計	新規	継続	計
地域枠(G5)	2	2	2	4	2	4	6	—	—	6
地域枠(G9)	—	—	—	—	—	—	—	7	—	7
地域枠(G7)	—	—	—	—	—	—	—	3	—	3
5・6年生枠	—	—	—	—	2	—	2	4	2	6
合計	2	2	2	4	4	4	8	14	8	22

(平成22年2月1日現在)

### 鹿児島大学医学部入学定員増と地域枠拡大

	～H17		H18～H20		H21		入学定員増		(単位:名) H22～	
	総数	地域枠	総数	地域枠	総数	地域枠	総数	地域枠	総数	地域枠
1年次入学者	85	0	85	2	95	7	10	10	105	17
学士編入学者	10	0	10	0	10	3	0	0	10	3
合計	95	0	95	2	105	10	10	10	115	20



### 地域枠学生卒業後の進路 (1例)

平成18年度～平成20年度貸与決定者(1年次入学者)

1年目	2年目	任意	3年目	4年目	5年目
臨床研修	臨床研修	実務研修	勤務	勤務	勤務
県立病院群又は鹿大病院			県立病院		

※1 12市町村  
薩摩川内市、南さつま市、奄美市、三島村、十島村、長島町、給良町、肝付町、南大隅町、屋久島町、瀬戸内町、喜界町

平成21年度以降貸与決定者(1年次入学者)

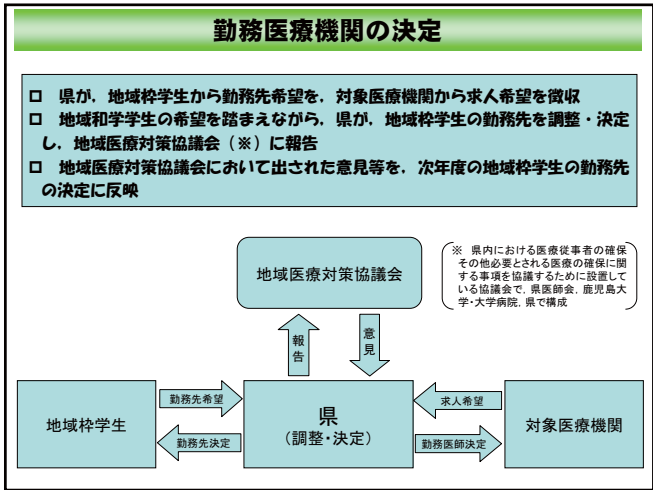
1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目
臨床研修	臨床研修	実務研修	勤務	勤務	勤務	勤務	勤務	勤務
県立病院群又は鹿大病院		県立病院	地域の拠点病院(※2)		離島・へき地所在医療機関		地域の拠点病院	

※2 地域の拠点病院  
地域医療支援病院  
へき地医療拠点病院  
小児科・産科拠点病院

少なくとも2年以上、離島・へき地所在医療機関で勤務

平成21年度以降貸与決定者(学士編入学者)

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目
臨床研修	臨床研修	実務研修	勤務	勤務	勤務	勤務
県立病院群又は鹿大病院		県立病院	離島・へき地所在医療機関		地域の拠点病院	



### 地域枠学生への期待

- ✓ 地域枠学生には、いわゆる「義務明け」後も、県内において、地域医療のリーダーとして、活躍してもらうことを期待
- ✓ そのために、卒前・卒後(義務期間中・義務明け後)を通じて、だれが、どのような支援をしていくのか!?

### 在学期間中における地域枠学生との関わり

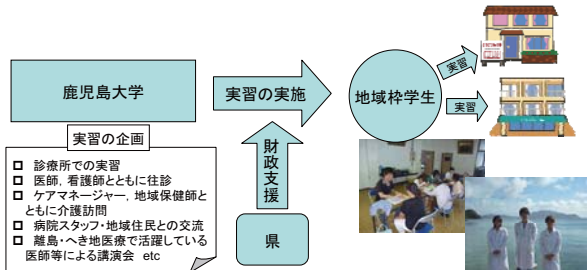
- ✓ 入学時の地域医療に対する熱意を保ち、離島・へき地医療に対する理解を深める。
- ✓ 単なる奨学金の貸与というだけでなく、オリエンテーションなどの機会を通じて、お互いに顔の見える関係
- ✓ また、鹿大との協働により、地域枠学生を対象とした離島・へき地医療実習を実施

#### 地域枠学生を対象としたプログラム

- 4月頃 地域枠(1年次入学者)オリエンテーション
- 8月頃 離島・へき地医療実習
- 10月頃 地域枠(学士編入学者)オリエンテーション
- 11月頃 講演会の開催

## 地域枠学生離島・へき地医療実習

- 地域の人々の生活と密着した保健・医療・福祉の現場に触れて、離島・へき地医療現場における医師の役割を理解
- 地域住民との交流を通して、地域住民に求められる医師像を体感
- 将来の離島・へき地での勤務の不安の軽減等を目的として、鹿児島大学との協働により実施



## 卒後の支援に係る課題

- ✓ 卒後（義務期間中・義務明け後）の地域枠学生のキャリアパスをどのように支援していくか？
- ✓ 特に義務明け後の県内定着を図るためには、支援体制をシステム化して、きめ細やかに・丁寧に対応する必要

講演3-b

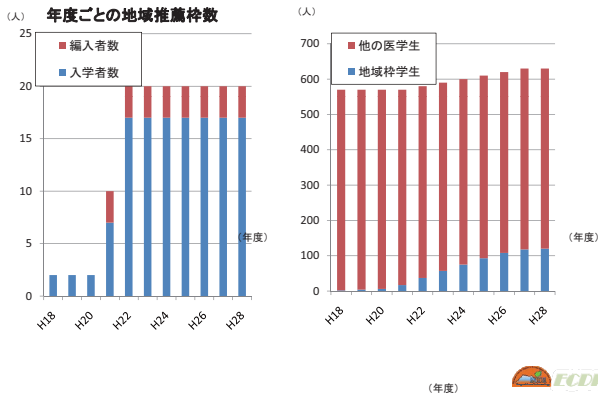
地域推薦枠医学生の卒前・卒後教育をどうするか？  
～大学と自治体の連携に関するシンポジウム～(東京)2010.2.19

# 鹿児島大学の地域推薦枠学生 ～卒前・卒後教育～

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科  
離島へき地医療人育成センター  
根路銘安仁 大脇哲洋 新村英士 嶽崎俊郎

区分	第一期(H18～)	第二期(H21～)	
	1年次入学者	1年次入学者	学士編入学者
出身地要件	県内高校出身	県内高校出身	制限なし
貸与者数	毎年度2名	毎年度17名 (平成21年度のみ7名)	毎年度3名
貸与時期	1～6年次	1～6年次	2(後期編入)～ 6年次
貸付期間	6年	6年	4.5年
貸付額	総額 9,400千円	総額 9,400千円	総額 7,270千円
勤務年限	5年 5年間(初期臨床研修の2 年間を含む)	9年 (臨床研修2年+実務研修 1年を含む)	7年 (臨床研修2年+ 実務研修1年を含む)
臨床研修病院	県立病院または鹿児島大学病院		
実務研修病院	原則として鹿児島県立病院		
義務年限内の勤務先	離島・へき地の診療所に3 年間(原則として同一市町 村)	<input type="checkbox"/> 知事が指定する医療機関 <input type="checkbox"/> へき地医療拠点病院 <input type="checkbox"/> 小児科・産科の拠点病院 ※小児科・産科・麻酔科に限る。 <input type="checkbox"/> 地域医療支援病院 <input type="checkbox"/> へき地診療所 <input type="checkbox"/> 国民健康保険診療所	

## 鹿児島大学の地域枠学生



## 平成20年度地域枠学生離島実習に対する感想

- ・ 実習を通し不安を和らげることが出来た。
- ・ 理解が深まったというよりも、知らない事が多いとあらためて実感した。
- ・ 資料のみで離島医療を理解するのも限界があったが、医療現場をみると説得力があつてなおかつ離島医療を理解しやすかつた。
- ・ 自分が医師になろうと考えるようになったきっかけを思いだし、目的の再確認もできた。
- ・ 実際に離島で仕事をしている先生の話は参考になる部分が多かつた。
- ・ 自分の将来について具体的にイメージできていたところまでは、まだまだいたらない。

## 鹿児島大学の地域枠学生の現状

- ・ 最終的には全体の5分の1近くまで増加するが、少数派である。
- ・ 地域医療に対する興味はある程度あるが、その理解程度は様々である。
- ・ 他の医学生と違い、一定期間の離島へき地医療に携わる期間がある。

## 医学生に対する地域医療教育は有効か？

卒前教育で、地域臨床実習を体験した医師は、地域医療現場での勤務志向が強いといわれている<sup>1)</sup>。

地域医療に関わる卒前教育の必要性・重要性が高まっており、地域医療臨床実習を取り入れる医学部は増えている<sup>2),3)</sup>。



医学生に対する地域医療教育は、有効である可能性が高い。

では、全医学生に対して地域医療教育を取り入れているならば、地域推薦枠医学生に対する特別な教育は必要ないのか？

1) 高屋敷明由美ら 医学教育2003;34:215-222  
2) Howe A, et al. Med Educ 2001;35:391-397  
3) Matsumoto m, et al. Aust J Rural Health 2005;13:219-225

## 地域枠学生に特別な教育は必要か？

		地域枠医学生	医学生 (地域枠を除く)	自治医科大学
地域医療	理解・興味	様々 (やや～興味あり)	様々 (無～興味あり)	様々 (やや～興味あり)
	勤務する可能性	義務期間有	様々(無～有)	義務期間有
学年において		少数派	全員	全員

地域枠学生は医学部の中で少数派、地域医療で勤務する義務期間がありといった点で、他の医学生や自治医科大学と背景が異なり、特別な教育が必要と考える。

## 全国の増加する地域推薦枠医学生への懸念

私立大学への助成を除き、県の出資額  
総額900～1000万円(6年間/1人当たり)

↓  
違約金は約1200～1400万程度

↓  
全国に多くの同種の医学生  
周到なリクルーターの存在

在学中に心変わり  
卒後に離脱者が多く出るのでは？

↓  
地域医療の楽しさ・重要性・やりがい  
学生の時期に繰り返す行

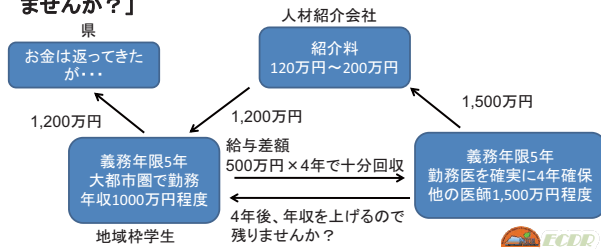
医学生時期の地域医療教育・実習の重要性



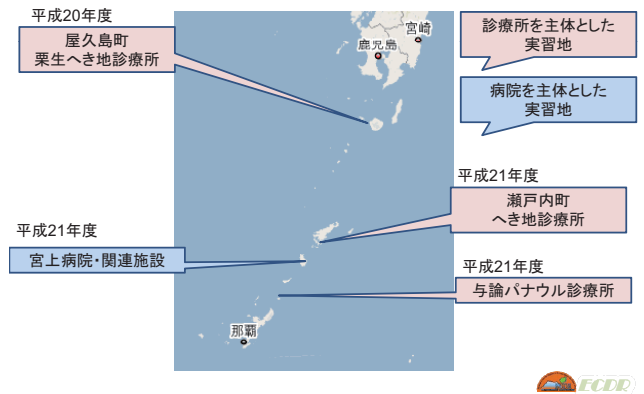
## もし、医師人材紹介会社なら

義務年限9年、初期臨床研修医が2年終了時に7年残存。  
違約金は一括で1,200万円

「奨学資金1200万円を派遣会社が負担するので、東京圏をはじめとする大都市圏の病院で7年間の約半分の4年間働きませんか？」



## 鹿児島大学地域枠学生夏季離島地域実習地



## 平成20年度 地域枠学生夏季離島地域実習

・対象  
鹿児島大学地域枠学生6名(医学部1～3年 各学年2名)

- ・実習目的  
(学生)
- 1 離島・へき地を含む地域社会で求められる医療・保健・福祉・介護の活動について医学生にとって必要な知識や技術を習得する。
  - 2 ロールモデルとなる実際に離島医療に従事している医師と話す。
  - 3 学年を超えた交流を図る。
- (大学)
- 1 離島へき地実習を行う際の計画の問題点、改善点を見いだす。
- FCDD

## 平成20年度地域推薦枠夏季離島実習(6名)

学生	A班(担当:大脇先生)	B班(担当:櫻橋館)
8月5日(火)	10:20 鹿児島港発(高速船トッピー) 099-226-0128 13:00 安房港着 トヨタレンタカー 0120-89-4046 2台 13:00 昼食 14:30 鹿児島大学久島町共同フィールドステーション着 15:00 診療所実習準備 血圧測定、エコーの教育講演(新村先生、大脇先生) 18:00 夕食	7:45 鹿児島港発(トッピー) 9:45 宮之浦港着 11:00 実生診療所訪問 12:00 昼食 13:00 診療所 17:00 診療所発 18:00 鹿児島県(中保室長)講演 19:00 座談会
8月6日(水)	8:00 出発 9:00 実生診療所訪問 12:00 昼食 13:00 ゆっくりかん見学 17:00 診療所発 18:00 鹿児島県(中保室長)講演 19:00 座談会	9:45 宮之浦港着 11:00 実生診療所訪問 12:00 昼食 13:00 診療所 17:00 診療所発 18:00 鹿児島県(中保室長)講演 19:00 座談会
8月7日(木)	13:20 安房港(高速船トッピー) 099-226-0128 15:30 鹿児島港着 15:40 解散	

FCDD

## 平成20年度特別実習からの問題点・改善点

- ・ 今回の実習に聞いた話は医師側からみたものが多かった。次回以降はもっと地元の方々と交流して、どんな医師像が求められているかを少しでも知りたい。  
→地元住民との交流の時間を作る
  - ・ 日程が短く、ばたばたして雰囲気味わえなかった。  
→時間的な余裕を持たせる
  - ・ 1名の診療所、複数名の診療所、離島の病院など自分たちが働く可能性があるところの現状を実習したい。  
→多くの医療機関を計画に入れる
- FCDD

## 自治医科大学の標準的プログラム

- ・ 外来診療
- ・ デイサービス・デイケア
- ・ 在宅医療
- ・ 健康教育・患者教育
- ・ 病棟回診
- ・ 健診活動
- ・ 時間外診療
- ・ リハビリテーション
- ・ 巡回診療
- ・ 予防接種
- ・ 老人保健施設・特別養護老人ホーム

地域医療活動をほぼ網羅していると思われる11項目<sup>1)</sup>  
実習項目数が少ない場合には実習の効果が上がらない可能性がある<sup>2)</sup>

1) 岡山雅信ら 医学教育2004;35:197-202  
2) 岡山雅信ら 医学教育2008;39:237-244



2008/8/17	14:00～16:00 鹿児島県医師会館・実習説明等 18:00鹿児島新港発船中泊	
	徳之島 瀬戸内	
2008/8/18	9:10電徳港着 5:00名瀬着 10:00 徳之島保健所 5:00古仁屋行バス6:26着	
	(1)ハブやハブ咬傷関係の講義と、ハブ見学 (2)レクチャー「暮らしに寄り添う保健と福祉」 (3)体験談「徳之島で勤務して感じること(公私両面)」	★『元気な笑顔教室』中央公民館～一般高齢者の運動教室 ★『母子相談』母子センター～親子あそびや身体計測、相談等 ★『タラソ健康づくり教室』渡速海岸 ★『交流会』民宿コノナツハウス
	18:00 地域住民との交流会	夕方 町役場職員と交流会
2008/8/19	診療所実習	診療所実習
～8/21	(宮上病院)	(瀬戸内診療所・加計呂麻診療)
2008/8/22	各地の港から出航し20:25 名瀬港着 8:00～12:30奄美北部観光 午後 13:00～16:00 報告会 21:20 名瀬港発 8:30 鹿児島新港着	
2008/8/23	9:00鹿児島新港発 9:15鹿児島中央駅着	

平成21年度地域推薦枠学生特別実習(13名)

- 「地域を知る」実習項目
- 「行政との関連」実習項目
- 医学的実習項目



## 2009地域枠学生実習報告会

- 司会:4年生 2名  
報告:①与論島班(4名)  
②徳之島班(4名)  
③奄美大島・加計呂麻島班(3名)
- 討論:A. 他班への質問  
B. 各々の島の医療の特徴・相違点  
C. 自分の将来像について  
D. 実習のありがたさについて
- 総評:嶺崎俊郎センター長



## 与論島班

- ・診療所の先生の**プライマリーケア**に対する考えを学んだ。
- ・**全人的医療**について考えを深めた。
- ・スピリチュアルケアについて先生の考えを聞いた。
- ・**狭い地域での地域医療**について、その一端を見せてもらった。



与論町役場訪問(与論町長と)



与論パナウル診療所(古川先生と)



## 徳之島班

- ・保健所長より**病気の予防が保健の仕事として大切**だと学んだ。
- ・保健所のハブ確保専任職員より、捕獲状況について学んだ。
- ・宮上病院が**とても忙しく、しかも住民の相談に一生懸命対応している姿**に感動した。
- ・**一人一人の患者に対応した医療**を行っていることを知った。
- ・少ない医療スタッフで仕事をこなすために工夫していた。
- ・**訪問看護**や、胃瘻増設術を見学した。
- ・**ケアハウスや特別養護老人ホームの役割**を学んだ。



訪問看護に付き添って



## 奄美大島・加計呂麻島班

- ・高齢者と接する時間が持てた。
- ・**役場の手作りのタラソ健康作り教室で、住民の方と交流した。**
- ・**バスによる巡回診療**を経験した。
- ・診療所の設備は十分でなかったが、対応した医療がなされていた。
- ・**自治医大卒の先生から、自分の体験談**などを聞くことができた。



加計呂麻島へ



巡回診療バス



巡回診療待合



## 討論：自分の将来像について

- ・病気ではなく、**人を診る医師**になりたい。
- ・**地域に密着した医師**になりたい。
- ・**プライマリーケア医**としてやっていける医師になりたい。
- ・**幅広く勉強**していきたい。
- ・患者の気持ちを理解できる医師になりたい。
- ・**内科だけではなく外科も**できないといけない。
- ・住民の生活も考えられる医師になりたい。
- ・**専門もしっかりやっていきたい**。
- ・色々ところで学んでいきたい(海外も含めて)。
- ・信頼される医師になりたい。
- ・些細な相談もしてもらえるような医師になりたい。
- ・「ありがとう」と言ってもらえる医師になりたい。
- ・仕事の先に患者がいることを自覚した。
- ・**地域の人のすぐそばで診療できる医師**になりたい。



## 夏季離島地域実習のまとめ

### 離島実習の効果

- ① 離島へき地医療への知識の獲得に有効である。
- ② 将来の勤務に対する不安を和らげることができた。
- ③ 地域枠に応募した初心の再確認を行えている。
- ④ 将来へ向け、学習目標をたてることができた。

### 離島実習の今後の問題点

- 地域枠学生の数の大幅な増加により、教官・実習地などの不足  
 →学年毎、もしくは実習地、学年を分散して開催する必要性  
 住民との交流を作る際に、地元医師、行政への協力が不可欠  
 →学生の満足度は高いが、**地元の負担にならないか?**



## 知事との面談

知事と面談することで、鹿児島県から期待されている人材として認識し、使命感をもってもらう。

## 特別講演

離島へき地現場で医療を行った医師の特別講演から将来のロールモデルを考えてもらう。



平成21年11月27日

離島へき地に生きる医師の姿  
「地域から発信する臨床研究」

帝京大学地域医療学講座  
井上和男 教授



## 地域枠学生には卒前教育だけで十分か？

- ・卒前の地域医療教育は、学生の地域医療への関心、理解を深めるのには重要であるが、**直接的に彼らが地域医療の現場で活動することを保証するものではない<sup>1)</sup>**。
- ・地方に住んでいたことと同じように、学生時代に地域医療にふれることが将来地域医療に携わる重要な因子となる<sup>2)</sup>。
- ・勤務するのに重要な因子として以下があげられている<sup>2)</sup>。
  - ① 国から地域を含めた支援体制
  - ② **キャリア形成のための機会の提供**
  - ③ 地域社会での配偶者の満足度
  - ④ 本人および家族の地域社会生活へのとけ込み
  - ⑤ こどもの教育

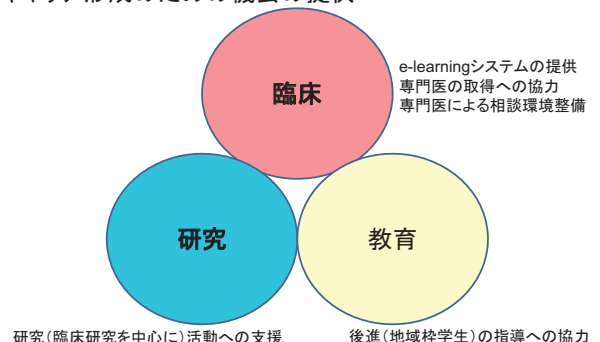
1) Eley D, et al. *Rural and Remote Health* 2006;6:511

2) Henry JA, et al. *Rural and Remote Health* 2009;9:1083

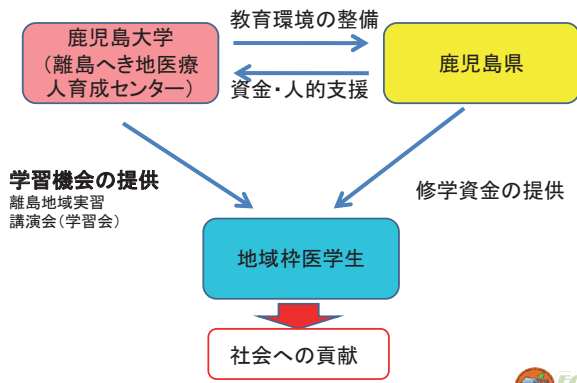


## 卒後に鹿児島大学の関われること？

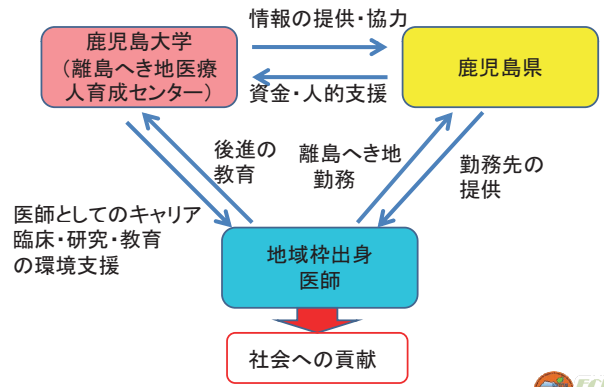
### キャリア形成のための機会の提供



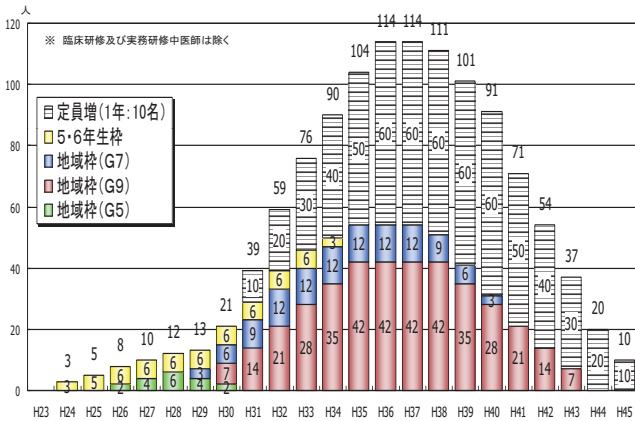
## 鹿児島大学の卒前教育との関わり



## 鹿児島大学の卒後教育との関わり



## 修学資金貸与医師数（義務勤務内）



## 地域枠学生の将来

- 総合医(離島へき地の診療所)
- 総合医(地域の中核病院)
- 専門医(高度医療機関)
- 研究者(大学等研究機関)
- 教育者(大学等教育機関)
- 行政官(県や地方自治体)

義務年限後いずれの道にも進めるように、学生・義務年限中の医師の間も学ぶ機会を行政・大学が協力し合って提供していくのが望ましい。

提供することで、卒後の修学資金の返済による流出を防ぐことが出来るのでは？

## 地域枠学生の義務年限

年次	年齢	第1期地域枠	第2期地域枠
1年次	19		
2年次	20		
3年次	21		
4年次	22		
5年次	23		
6年次	24		
初期臨床研修1年目	25		
初期臨床研修2年目	26		
医師3年目	27		
医師4年目	28		
医師5年目	29		
医師6年目	30		
医師7年目	31		
医師8年目	32		
医師9年目	33		

第1期地域枠学生は30歳、第2期地域枠学生は34歳以降の勤務先保証はない。

県立病院等だけでは、最終的に200名の医師の勤務先を確保するのは難しいのでは？

## 地域枠学生の教育目標と方法

	目標		方法
	自治体	大学	
卒業時	修学資金の返還なし	離島へき地での勤務ができる能力の育成	地域医療学習機会の提供(大学教育機会)(自治体資金)
義務年限内	義務年限内の勤務履行(地域医療勤務医師の確保)	臨床・研究・教育のキャリアの形成	医師としてのキャリア臨床・研究・教育の環境支援
義務後	地域医療に貢献(必ずしもへき地で勤務するのではなく地域医療の視点を持って活動する人材)		就職先や研究先の確保

## 講演 3-c



左：奄美大島での離島実習時、マングローブの中をカヌーで散策。  
右：離島実習時、加計呂麻島への巡回診療へ同行

八代悠希

鹿児島大学医学部医学科 2年

鹿児島県鹿屋市出身

鶴丸高校卒業

平成20年4月地域推薦枠医学生（奨学金あり。卒後研修期間を含めて5年間地域での就労義務を負う）として入学

### 【入学動機】

幼い頃、祖父を亡くしました。その原因の一つとなったのが、私が産まれる前にかかった心筋梗塞でした。

当時地元の鹿屋市（大隅半島）でできる心筋梗塞の処置は限られていて、鹿屋から鹿児島市に運ぶにはかなり時間がかかり、倒れてから5時間後に鹿児島の病院についたそうです。搬送先の病院で、もう少し早かったら、と先生がおっしゃったと聞きました。大変なショックだったそうです。

鹿屋市はへき地でもないし、病院も少ないわけではありません。それでもそのような状況があるということに、私も衝撃を受けました。

鹿屋市でそういう状況なら、離島やへき地は想像もつかないほど大変なのだろうと思い、私がお手助けを少しでもしたいと考えて地域枠で入学しました。

